

## 森安孝夫教授 略歴・主要業績

## 略 歴

- 昭和23 (1948) 年2月11日 福井県坂井郡三国町（現：坂井市）に生まれる。
- 昭和35 (1960) 年3月 福井県三国町立新保小学校 卒業
- 昭和38 (1963) 年3月 福井県三国町立三国中学校 卒業
- 昭和41 (1966) 年3月 福井県立藤島高等学校 卒業
- 昭和42 (1967) 年4月 東京大学文科Ⅲ類 入学
- 昭和44 (1969) 年12月 東京大学文学部東洋史学科 進学
- 昭和47 (1972) 年3月 東京大学文学部東洋史学科 卒業
- 昭和47 (1972) 年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程東洋史学専攻入学
- 昭和50 (1975) 年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程東洋史学専攻修了
- 昭和50 (1975) 年4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程東洋史学専攻進学
- 昭和53 (1978) 年10月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程東洋史学専攻休学  
フランス政府給費留学生としてパリに留学
- 昭和55 (1980) 年6月 パリより帰国
- 昭和56 (1981) 年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程東洋史学専攻  
単位修得退学
- 昭和56 (1981) 年4月 (財) 東洋文庫 日本学術振興会奨励研究員
- 昭和57 (1982) 年4月 金沢大学文学部専任講師 同大学院専任講師併任
- 昭和57 (1982) 年10月 金沢大学文学部助教授 同大学院助教授併任
- 昭和59 (1984) 年4月 大阪大学文学部助教授 アジア諸民族史講座主任  
大阪大学大学院（文学研究科）助教授併任
- 平成4 (1992) 年7月16日 大阪大学より博士（文学）の学位を取得
- 平成6 (1994) 年4月 大阪大学文学部教授 アジア諸民族史講座主任  
大阪大学大学院（文学研究科）教授併任
- 平成7 (1995) 年4月 大阪大学文学部教授 世界史講座担当  
大阪大学大学院（文学研究科）教授併任
- 平成10 (1998) 年4月 大阪大学大学院文学研究科教授  
大阪大学文学部教授併任
- 平成23 (2011) 年7月 Société Asiatique（アジア協会，本部パリ）終身名誉会員
- 平成24 (2012) 年3月 大阪大学を定年退職

## 受賞

- 昭和50（1975）年11月 流沙海西奨学会賞（第8回），江上波夫記念流沙海西奨学会  
 昭和63（1988）年11月 東方学会賞（第7回），（財）東方学会  
 平成15（2003）年5月 大阪大学共通教育賞（第2回），大阪大学共通教育機構  
 平成15（2003）年5月 コレージュ＝ド＝フランス招待教授記念メダル，  
 コレージュ＝ド＝フランス

## 学会関係役員

- 東方学会 評議員（任期2000年6月～2003年9月；2009年9月～2011年9月）  
 理事（任期2003年9月～2009年9月）  
 学術委員（任期2011年9月～現在に至る）  
 内陸アジア史学会 常任理事（任期1994年11月～現在に至る）  
 日本モンゴル学会 理事（任期1987年5月～2012年3月）  
 日仏東洋学会 評議員（任期1991年3月～2011年3月）  
 東洋史研究会 評議員（任期2001年11月～2011年6月）  
 『内陸アジア言語の研究』 編集長（任期1994年10月～2011年3月）

## 主要業績（年代順）

### 1973

1. 「ウイグルと吐蕃の北庭争奪戦及びその後の西域情勢について」『東洋学報』55-4, 1973 / 3, pp. 60-87.

### 1974

2. 「ウイグル仏教史史料としての棒杭文書」『史学雑誌』83-4, 1974 / 4, pp. 38-54.

### 1977

3. 「ウイグルの西遷について」『東洋学報』59-1/2, 1977 / 10, pp. 105-130.  
 4. 「チベット語史料中に現われる北方民族 ——DRU-GU と HOR——」『アジア・アフリカ言語文化研究』14, 1977 / 12, pp. 1-48.

### 1979

5. 「増補：ウイグルと吐蕃の北庭争奪戦及びその後の西域情勢について」，流沙海西奨学会（編）『アジア文化史論叢』3，東京，山川出版社，1979 / 8, pp. 199-238.

### 1980

6. 「ウイグルと敦煌」，榎一雄（編）『講座敦煌 2 敦煌の歴史』東京，大東出版社，1980 / 7, pp. 297-338.

7. 「イスラム化以前の中央アジア史研究の現況について」『史学雑誌』89-10, 1980 / 10, pp. 50-71.
8. “La nouvelle interprétation des mots *Hor* et *Ho-yo-hor* dans le manuscrit Pelliot tibétain 1283.” *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae* 34-1/3, 1980, pp. 171-184.

## 1981

9. “Qui des Ouigours ou des Tibétains ont gagné en 789-792 à Beš-baliq?” *Journal Asiatique* 269-1/2, *Numéro spécial: Actes du Colloque international (Paris, 2-4 octobre 1979): Manuscrits et inscriptions de Haute Asie du V<sup>e</sup> au XI<sup>e</sup> siècle*, 1981 / 5, pp. 193-205.

## 1982

10. “An Uigur Buddhist’s Letter of the Yüan Dynasty from Tun-huang —Supplement to “Uigurica from Tun-huang” —.” *Memoirs of the Research Department of the Tōyō Bunko* 40, 1982, pp. 1-18.
11. 「渤海から契丹へ ——征服王朝の成立——」, 『東アジア世界における日本古代史講座 7 東アジアの変貌と日本律令国家』東京, 学生社, 1982 / 1, pp. 71-96.
12. 「景教」, 前嶋信次ほか (共編) 『オリエント史講座 3 渦巻く諸宗教』東京, 学生社, 1982 / 3, pp. 264-275.

## 1983

13. 「元代ウイグル仏教徒の一書簡 ——敦煌出土ウイグル語文献補遺——」, 護 雅夫 (編) 『内陸アジア・西アジアの社会と文化』東京, 山川出版社, 1983 / 6, pp. 209-231.

## 1984

14. 「吐蕃の中央アジア進出」『金沢大学文学部論集 (史学科篇)』4 (1983), 1984 / 3, pp. 1-85, + 2 pls.

## 1985

15. 「チベット文字で書かれたウイグル文仏教教理問答 (P. t. 1292) の研究」『大阪大学文学部紀要』25, 1985 / 3, pp. 1-85, + 1 pl.
16. 「ウイグル語文献」, 山口瑞鳳 (編) 『講座敦煌 6 敦煌胡語文献』東京, 大東出版社, 1985 / 8, pp. 1-98, incl. 4 pls.

## 1986

17. 「『善悪因果経』の流通とその史的背景」, 『三島海雲記念財団第23回事業報告書 (昭和60年度)』東京, 三島海雲記念財団, 1986 / 10, pp. 225-231.

## 1987

18. 「中央アジア史の中のチベット ——吐蕃の世界史的 position 付けに向けての展望——」, 長野泰彦／立川武蔵 (共編) 『チベットの言語と文化』東京, 冬樹社, 1987 / 4, pp. 44-68.
19. 「敦煌と西ウイグル王国 ——トウルファンからの書簡と贈り物を中心に——」『東洋学』74, 1987 / 7, pp. 58-74.

## 1988

20. 「敦煌出土元代ウイグル文書中のキンサイ緞子」, 榎博士頌寿記念東洋史論叢編纂委員会 (編) 『榎博士頌寿記念東洋史論叢』東京, 汲古書院, 1988 / 11, pp. 417-441, incl. 2 pls.
21. 山田信夫／小田壽典／梅村 坦 と共著「ウイグル文契約文書の総合的研究」『内陸アジア史研究』4, 1988 / 3, pp. 1-35.

## 1989

22. 吉田 豊／新疆ウイグル自治区博物館 と共著「魏氏高昌国時代ソグド文女奴隷売買文書」『内陸アジア言語の研究』4 (1988), 1989 / 3, pp. 1-50, + 1 pl.
23. 「ウイグル文書筈記 (その一)」『内陸アジア言語の研究』4 (1988), 1989 / 3, pp. 51-76.
24. 「トルコ仏教の源流と古トルコ語仏典の出現」『史学雑誌』98-4, 1989 / 4, pp. 1-35.

## 1990

25. "L'origine du Bouddhisme chez les Turcs et l'apparition des textes bouddhiques en turc ancien." In: A. Haneda (ed.), *Documents et archives provenant de l'Asie Centrale. Actes du Colloque Franco-Japonais organisé par l'Association Franco-Japonaise des Études Orientales*, Kyoto: Dôhōsha, 1990 / 2, pp. 147-165.
26. 「ウイグル文書筈記 (その二)」『内陸アジア言語の研究』5 (1989), 1990 / 3, pp. 69-89.
27. 多魯坤=闕白爾／梅村 坦 と共著「ウイグル文仏教尊像受領命令文書研究 ——USp. No. 64 などにみえる "čuv" の解釈を兼ねて——」『アジア・アフリカ言語文化研究』40, 1990 / 9, pp. 13-34, incl. 2 pls.

## 1991

28. 『ウイグル=マニ教史の研究』『大阪大学文学部紀要』31/32(合併号), 1991 / 8, 248 頁, 図版・スケッチ多数, 地図2枚.
29. 「仏教と異宗教との出遭い」, 龍谷大学三五〇周年記念学術企画出版編集委員会 (編) 『仏教東漸——祇園精舎から飛鳥まで——』京都, 思文閣出版, 1991 / 12, pp. 108-125.

## 1992

30. 多数と共著 桑山正進（編）『慧超往五天竺国伝研究』京都, 京都大学人文科学研究所, 1992 / 3, xii + 292頁, 図版多数. (再版: 京都, 臨川書店, 1998 / 1.)
31. 「ウイグル文書笈記 (その三)」『内陸アジア言語の研究』7 (1991), 1992 / 5, pp. 43-53.

## 1993

32. 山田信夫 (著); 小田壽典/P. ツィーメ/梅村 坦/森安孝夫 (共編)『ウイグル文契約文書集成』全3巻, 吹田, 大阪大学出版会, 1993 / 12.  
N. Yamada; edited and revised by J. Oda / P. Zieme / H. Umemura / T. Moriyasu, *Sammlung uigurischer Kontrakte*. 3 vols., Suita (Osaka): Osaka University Press, 1993 / 12. (This work is written both in Japanese and in German.)

## 1994

33. 「ウイグル文書笈記 (その四)」『内陸アジア言語の研究』9, 1994 / 6, pp. 63-93.
34. 「ポール・ペリオ」『月刊しにか』5-6, 1994 / 6, pp. 106-113. = 再録: 高田時雄 (編)『東洋学の系譜 欧米篇』東京, 大修館書店, 1996 / 12, pp. 137-152.

## 1995

35. 「日本における内陸アジア史並びに東西交渉史研究の歩み —— イスラム化以前を中心に ——」『内陸アジア史研究』10, 1995 / 3, pp. 1-26.
36. 「古代ウイグル文書の世界」(平成七年度春季東洋学講座講演要旨)『東洋学報』77-1/2, 1995 / 10, pp. 169-173.

## 1996

37. "Notes on Uighur Documents." *Memoirs of the Research Department of the Tōyō Bunko* 53 (1995), 1996, pp. 67-108.
38. 「中央ユーラシアから見た世界史 —— 東洋史と西洋史の間 ——」『あうろーら』4, 1996 / 8, pp. 26-38.
39. 「世界史の中の異文化交流」, 柏木隆雄/山口 修 (共編)『異文化の交流』吹田, 大阪大学出版会, 1996 / 11, pp. 87-107.

## 1997

40. 「オルトク (幹脱) とウイグル商人」, 森安孝夫 (編)『近世・近代中国および周辺地域における諸民族の移動と地域開発』(平成7・8年度科学研究費補助金基盤研究 (B) (2) 研究成果報告書), 豊中, 大阪大学文学部, 1997 / 3, pp. 1-48.
41. 「ウイグル文字新考 —— 一回名称問題解決への一礎石 ——」, 『東方学会創立五十周年記念 東方学論集』東京, 東方学会, 1997 / 5, pp. 1238-1226 (逆頁).

42. 「大英図書館所蔵ルーン文字マニ教文書 Kao. 0107 の新研究」『内陸アジア言語の研究』12, 1997 / 7, pp. 41-71, + 4 pls.
43. 「《シルクロード》のウイグル商人 ——ソグド商人とオルトク商人のあいだ——」, 『岩波講座世界歴史 11 中央ユーラシアの統合 (九～一六世紀)』東京, 岩波書店, 1997 / 11, pp. 93-119.

## 1998

44. “A Report on the 1996-1997 Mongol-Japanese Expeditions in Mongolia.” *Newsletter of the Circle of Inner Asian Art* 7, 1998 / 4, pp. 6-8.
45. 「中央アジア学の今日的意義 ——新たなる世界史への視点——」『月刊しにか』9-7, 1998 / 7, pp. 70-75.
46. 石見清裕 と共著「大唐安西阿史夫人壁記の再読と歴史学的考察」『内陸アジア言語の研究』13, 1998 / 9, pp. 93-110, + 2 pls.
47. 吉田 豊 と共著「モンゴル国内突厥ウイグル時代遺蹟・碑文調査簡報」『内陸アジア言語の研究』13, 1998 / 9, pp. 129-170.
48. 「ウイグル文契約文書補考」『待兼山論叢 (史学篇)』32, 1998 / 12, pp. 1-24, incl. 2 pls.

## 1999

- 49-0. 森安孝夫 / A. オチル (共編) 『モンゴル国現存遺蹟・碑文調査研究報告』豊中, 大阪大学文学研究科内, 中央ユーラシア学研究会, 1999 / 3, 292 頁, スケッチ多数.  
T. Moriyasu / A. Ochir (eds), *Provisional Report of Researches on Historical Sites and Inscriptions in Mongolia from 1996 to 1998*. Toyonaka (Osaka): Society of Central Eurasian Studies, 1999 / 3, 292 pp. + many illustrations.
- 49-1. 「シネウス遺蹟・碑文」, 森安孝夫 / A. オチル (共編) 『モンゴル国現存遺蹟・碑文調査研究報告』豊中, 中央ユーラシア学研究会, 1999 / 3, pp. 177-195.
- 49-2. 吉田 豊 / 片山章雄 と共著「カラ=バルガスン碑文」, 森安孝夫 / A. オチル (共編) 『モンゴル国現存遺蹟・碑文調査研究報告』豊中, 中央ユーラシア学研究会, 1999 / 3, pp. 209-224.
50. Peter Zieme と共著 “From Chinese to Uighur Documents.” 『内陸アジア言語の研究』*Nairiku Ajia gengo no kenkyū [Studies on the Inner Asian Languages]* 14, 1999 / 9, pp. 73-102, + 7 pls.

## 2000

51. 「欧州所在中央アジア出土文書・遺品の調査と研究」『東方学』99, 2000 / 1, pp. 122-134.

52. 柳洪亮／榮新江／吉田 豊 と共著 新疆吐魯番地区文物局（編）『吐魯番新出摩尼教文献研究』北京，文物出版社，2000 / 1, 297 頁，図版あり。
53. “The Sha-chou Uighurs and the West Uighur Kingdom.” *Acta Asiatica* 78, 2000 / 3, pp. 28-48.
54. 「沙州ウイグル集団と西ウイグル王国」『内陸アジア史研究』15, 2000 / 3, pp. 21-35.
55. 「河西帰義軍節度使の朱印とその編年」『内陸アジア言語の研究』15, 2000 / 10, pp. 1-121, + 1 table, +10 pls. in color & 5 pls. in black and white.
56. 吉田 豊 と共著「ベゼクリク出土ソグド語・ウイグル語マニ教徒手紙文」『内陸アジア言語の研究』15, 2000 / 10, pp. 135-178.
57. “On the Uighur *čxšapt ay* and the Spreading of Manichaeism into South China.” In: R. E. Emmerick / W. Sundermann / P. Zieme (eds.), *Studia Manichaica. IV. Internationaler Kongress zum Manichäismus, Berlin, 14.-18. Juli 1997, (Berichte und Abhandlungen der Berlin-Brandenburgischen Akademie der Wissenschaften, Sonderband 4)*, Berlin: Akademie Verlag, 2000, pp. 430-440.
58. “The West Uighur Kingdom and Tun-huang around the 10th-11th Centuries.” *Berichte und Abhandlungen der Berlin-Brandenburgischen Akademie der Wissenschaften* 8, Berlin: Akademie Verlag, 2000, pp. 337-368, incl. many pls. (pp. 358-368).

## 2001

59. “Uighur Buddhist Stake Inscriptions from Turfan.” In: L. Bazin / P. Zieme (eds.), *De Dunhuang à Istanbul. Hommage à James Russell Hamilton*, (Silk Road Studies, 5), Turnhout (Belgium): Brepols, 2001 / 3, pp. 149-223.
60. 「ウイグル文字文化からモンゴル文字文化へ」『日本モンゴル学会紀要』31, 2001 / 3, pp. 175-176.

## 2002

61. “On the Uighur Buddhist Society at Čiqtim in Turfan during the Mongol Period.” In: M. Ölmez / S.-Ch. Raschmann (eds.), *Splitter aus der Gegend von Turfan, Festschrift für Peter Zieme anlässlich seines 60. Geburtstags*, (Türk Dilleri Araştırmaları Dizisi, 35), Istanbul / Berlin: Şafak Matbaacılık, 2002 / 4, pp. 153-177.
62. 「ウイグルから見た安史の乱」『内陸アジア言語の研究』17, 2002 / 9, pp. 117-170, + 2 pls.

## 2003

63. "Uighur Inscriptions on the Banners from Turfan Housed in the Museum für Indische Kunst, Berlin." In: Chhaya Bhattacharya-Haesner, *Central Asian Temple Banners in the Turfan Collection of the Museum für Indische Kunst, Berlin*, Berlin: Dietrich Reimer Verlag, 2003 / 1, pp. 461-474.
64. "Four Lectures at the Collège de France in May 2003. History of Manichaeism among the Uighurs from the 8th to the 11th Centuries in Central Asia." 「コレージュ＝ド＝フランス講演録 ウイグル＝マニ教史特別講義」, 森安孝夫 (編) 『シルクロードと世界史』 (大阪大学 21 世紀 COE プログラム 「インターフェイスの人文科学」 報告書, 第 3 卷), 豊中, 大阪大学大学院文学研究科, 2003 / 12, pp. 23-111, +15 pls. in colour, 8 maps, 3 figs.
- I. "Introduction à l'histoire des Ouïghours et de leurs relations avec le Manichéisme et le Bouddhisme." (pp. 24-38.) 和文版: 「世界史の中におけるウイグル史とマニ教=仏教二重窟」 (pp. 39-48.)
- II. "Manichaeism under the East Uighur Khanate with Special References to the Fragment Mainz 345 and the Kara-Balgasun Inscription." (pp. 49-62.)
- III. "The Flourishing of Manichaeism under the West Uighur Kingdom. New Edition of the Uighur Charter on the Administration of the Manichaean Monastery in Qočo." (pp. 63-83.)
- IV. "The Decline of Manichaeism and the Rise of Buddhism among the Uighurs with a Discussion on the Origin of Uighur Buddhism." (pp. 84-100.)
- In: T. Moriyasu (ed.), *Shirukurōdo to sekaishi [World History Reconsidered through the Silk Road]*, (Osaka University The 21st Century COE Program Interface Humanities Research Activities 2002\*2003, Vol. 3), Toyonaka (Osaka): Osaka University, Graduate School of Letters, 2003 / 12, pp. 23-111, +15 pls. in colour, 8 maps, 3 figs.

## 2004

- 65-0. 森安孝夫 (編) 『中央アジア出土文物論叢』 京都, 朋友書店, 2004 / 3, vii + 181 頁, 巻頭カラー図版 8 頁.
- 65-1. 「序文 ——シルクロード史観論争の回顧と展望——」, 森安孝夫 (編) 『中央アジア出土文物論叢』 京都, 朋友書店, 2004 / 3, pp. i-vii.
- 65-2. 「シルクロード東部における通貨 ——絹・西方銀銭・官布から銀錠へ——」, 森安孝夫 (編) 『中央アジア出土文物論叢』 京都, 朋友書店, 2004 / 3, pp. 1-40.



66. "From Silk, Cotton and Copper Coin to Silver. Transition of the Currency Used by the Uighurs during the Period from the 8th to the 14th Centuries." In: D. Durkin-Meisterernst / S.-Ch. Raschmann / J. Wilkens / M. Yaldiz / P. Zieme (eds.), *Turfan Revisited. The First Century of Research into the Arts and Cultures of the Silk Road*, Berlin: Dietrich Reimer Verlag, 2004 / 5, pp. 228-239, incl. 2 pls.
67. 「亀茲国金花王と礪砂に関するウイグル文書の発見」, 『三笠宮殿下米寿記念論集』東京, 刀水書房, 2004 / 11, pp. 703-716, incl. 1 pl.
68. *Die Geschichte des uigurischen Manichäismus an der Seidenstraße. —Forschungen zu manichäischen Quellen und ihrem geschichtlichen Hintergrund—*. Übersetzt von Christian Steineck, (Studies in Oriental Religions, 50), Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2004 / 12, xix + 292 pp.

## 2005

69. 「シルクロード「学」へのまなざし」, NHK「新シルクロード」プロジェクト(編)『NHKスペシャル 新シルクロード 1 楼蘭・トルファン』東京, 日本放送出版協会, 2005 / 2, pp. 196-210.
70. 「前近代中央アジアにおける税役」『東方学会報』88, 2005 / 8, pp. 14-16.
71. "Taxes and Labour Services in Pre-modern Central Asia." *Transactions of the International Conference of Eastern Studies* 50, 2005 / 12, pp. 164-169.

## 2006

72. 遠藤和男／宅見有子／佐藤貴保 と共著「遼・西夏」, 礪波 護／岸本美緒／杉山正明(共編)『中国歴史研究入門』名古屋, 名古屋大学出版会, 2006 / 1, pp. 158-171, 408-411.

## 2007

73. 『シルクロードと唐帝国』(興亡の世界史, 第5巻), 東京, 講談社, 2007 / 2, 396頁, カラー口絵8頁.
74. 「西ウイグル仏教のクロノロジー ——ベゼクリクのグリユンヴェーデル編号第8窟(新編号第18窟)の壁画年代再考——」『仏教学研究』62/63(合併号), 2007 / 3, pp. 1-45.
75. 「唐代における胡と仏教的世界地理」『東洋史研究』66-3, 2007 / 12, pp. 1-33, incl. 1 pl.

## 2008

76. "Introduction to the *Japanese Studies in the History of Pre-Islamic Central Asia*." *Acta Asiatica* 94, 2008 / 2, pp. iii-ix.

77. "Japanese Research on the History of the Sogdians along the Silk Road, Mainly from Sogdiana to China." *Acta Asiatica* 94, 2008 / 2, pp. 1-39.
78. "Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from Central Asia." *Acta Asiatica* 94, 2008 / 2, pp. 127-153.
79. "Chronology of West Uighur Buddhism: Re-examination of the Dating of the Wall-paintings in Grünwedel's Cave No. 8 (New: No. 18), Bezeklik." In: P. Zieme (ed.), *Aspects of Research into Central Asian Buddhism. In Memoriam Kōgi Kudara*, (Silk Road Studies, 16), Turnhout (Belgium): Brepols, 2008 / 3, pp. 191-227.

## 2009

80. 鈴木宏節／齊藤茂雄／田村 健／白 玉冬 と共著「シネウス碑文訳注」『内陸アジア言語の研究』24, 2009 / 6, pp. 1-92, + 12 pls.

## 2010

81. 「日本に現存するマニ教絵画の発見とその歴史的背景」『内陸アジア史研究』25, 2010 / 3, pp. 1-29.

## 2011

82. "The Discovery of Manichaean Paintings in Japan and Their Historical Background." In: Jacob Albert van den Berg et al. (eds.), *'In Search of Truth': Augustine, Manichaeism and Other Gnosticism. Studies for Johannes van Oort at Sixty*, (Nag Hammadi and Manichaean Studies, 74), Leiden / Boston: Brill, 2011 / 1, pp. 339-360.
83. 「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（前編）」『大阪大学大学院文学研究科紀要』51, 2011 / 3, pp. 1-86. (和文版：pp. 1-31 + 和英文献目録 on pp. 70-86) .
- "Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 1)." *Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University* 51, 2011 / 3, pp. 1-86. (English version: pp. 32-69 + bilingual bibliography on pp. 70-86).
84. 「内陸アジア史研究の新潮流と世界史教育現場への提言」『内陸アジア史研究』26, 2011 / 3, pp. 3-34.
- 85-0. 森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』東京，汲古書院，2011 / 12, 16 + 631 pp.
- 85-1. 「日本におけるシルクロード上のソグド人研究の回顧と近年の動向（増補版）」，森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』東京，汲古書院，2011 / 12, pp. 3-46.
- 85-2. 「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（後編）」，森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』東京，汲古書院，2011 / 12, pp. 335-425.

2012

86. "Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 2)."  
*Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University* 52, 2012 / 3, pp. 1-97,  
incl. 3 colour pls.